

国語科学習指導案

第1学年

本時で身に付けさせたい力

文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、よりよく書くことができる。【思・判・表（Bウ）】

I 単元名／教材名 ころぼかぼか手がみをかこう

II 単元の考察

1 児童の実態

2 教材について

本教材では、学習指導要領「B 書くこと 言語活動例 イ日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動」をもとに、相手を決めて、出来事や気持ちが伝わるように手紙を書くことを言語活動として設定している。手紙は、相手を意識して、相手のことを思いながら書くという特徴がある。遠く離れていてもやりとりができたり、書いた物が相手の手元に残ったりといった手紙ならではの良さを児童に実感させつつ学習に取り組ませたい。

本教材のねらいは、よりよく伝わる文章を書くために、書いた文章を読み返す習慣をつけ、間違いを正す力を育むことである。今回の教材で、初めて推敲について重点的に学習することになる。相手に手紙を届けるという目的を常に意識させ、文章を直すということに対する意欲を低下させることのないよう配慮したい。書いた文章を音読したり、友達に読んでもらったりしながら、文章を読み返し直すことでよりよい文章になることを実感させたい。

教科書では、「お世話になった6年生に感謝を伝える手紙を書くこと」を想定している。しかし書く内容を広げたり深めたりすることが難しいのではないかと考え、幼稚園・保育園・こども園でお世話になった先生に、1年生になって体験したことやできるようになったことについて手紙を書くという活動にかえて設定した。

以上のように、教材「ころぼかぼかてがみをかこう」は、本学級児童の意欲を高めつつ、書くことの言語能力を向上させるのに適した教材であると言える。

III 目標及び評価規準

- 1 目標 体験した出来事や気持ちが相手に伝わるように手紙を書き、文章を読み返して間違いを正し、よりよくすることができる。

2 評価規準

評価規準	知識・技能	言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。
	思考・判断・表現	文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりして、よりよく書くことができる。
	主体的に学習に取り組む態度	これまでの学習をいかし、書いた文章を積極的に見直ししながら、身近な人に手紙を書こうとしている。

3 指導方針

つかむ

- (1) 手紙を書いたりもらったりした経験を話し合い、手紙を書くことへの意欲を高めるようにする。
- (2) 教科書や教師のモデル文を提示して、学習の流れをつかませ、「自分も書けそうだ。」「書いてみたい。」という気持ちをもたせる。
- (3) 幼稚園・保育園・こども園でお世話になった先生に手紙を出すことを伝え、入学してから今までを振り返って、相手にどんなことを伝えたいかおさえ、その出来事や気持ちを詳しく想起させるようにする。

追求する

- (4) 書く分量の違う3種類の手紙用便せんを用意し、児童が書ける量を自分で考え、選べるようにする。
- (5) 手紙を書く場面では、児童の意欲や思考を損なわないよう、書けない文字や言葉についてはひらがな表を活用したり、教師が手本を書いたりして、書きたいことが表現できるよう配慮する。
- (6) 伝えたい出来事を書く時には、既習事項をいかし「いつ」「どこで」「誰と」「何を」したかを書くよう促す。
- (7) 間違いのあるモデル文を示し、児童が推敲の必要性を感じたり推敲の様々な方法を学習したりすることができるように工夫する。
- (8) 交流の場面では、間違いを指摘するだけではなく、よかった所や感想を伝え合わせることで、手紙を書いたことへの達成感を得られるようにする。

まとめる

- (9) 手紙自体が相手への贈り物になり、相手の手元に残るということを意識させ、清書をする段階では特に丁寧に文字を書かせるようにする。

IV 指導計画（5時間計画 本時は4／5時間目）

過程	時間	単位時間の目標 ☆「主体的」「対話的」「深い学び」の視点	○主な学習活動及び ◎指導上の留意点 ☆児童の姿や思考等	観点 評価項目 (方法)
つかむ	1	手紙について興味をもち、おおまかな学習の流れをつかんで、伝えたい出来事や気持ちを考えることができる。(主)	○学習の進め方を理解し、見通しをもつ。 幼稚園・保育園・こども園の先生宛に手紙を書くことに興味をもつ。 ○入学してから今までの出来事で、先生に伝えたいことを決める。 ◎教科書のモデル文や教師のモデル文を提示することで、見通しをもてるようにする。 ◎児童が思い出せるように、入学してから今までの出来事を問いかける。 ☆自分も書けそうだな。～先生に手紙を書いてみたいな。 ☆～のことを伝えたいな。	【主】手紙について興味をもち、おおまかな学習の流れをつかんでいる。(発言)
	2	伝えたい出来事や気持ちなどを手紙に書くことができる。(対)(深)	○手紙を書く。 ◎書く分量の違う3種類の手紙用便せんを用意し、児童が書ける量を自分で考え、選べるように工夫する。	【思・判・表】伝えたい出来事や気持ちなどを手紙に書く。(下書き用ワー

追 求 す る			<p>◎書けない文字や言葉についてはひらがな表を活用したり、教師が手本を書いたりして、書きたいことが表現できるように配慮する。</p> <p>◎伝えたい出来事を書く時には、既習事項を生かし「いつ」「どこで」「誰と」「何を」したかを書くように促す。</p> <p>☆～のことを書こう。～はどうやって書くんだっただかな。</p>	クシート)
	3	<p>モデル文を読んで間違いがないか確かめることができる。 (対)(深)</p>	<p>○教師の示したモデル文を読んで、間違いを探す。</p> <p>◎間違いのあるモデル文を示し、推敲の必要性を感じたり推敲の様々な方法を学んだりすることができるように工夫する。</p> <p>☆～がまちがっているな。</p>	【思・判・表】文章を読み返して間違いがないか確かめる。(教師のモデル文)
	4 (本時)	<p>自分の文章を読み返して間違いがないか確かめることができる。 (対)(深)</p>	<p>○前時のモデル文を見ながら、推敲のポイントを確認する。教師の示したモデル文を読んで、間違いを探す。</p> <p>○間違いを正したり付け足したりするために下書き用ワークシートを読み返す。</p> <p>◎間違いのあるモデル文を示し、推敲の必要性を感じたり推敲の様々な方法を学んだりすることができるように工夫する。</p> <p>☆～がまちがっていたな。もっとじょうずにかきたいな。</p>	【思・判・表】文章を読み返して間違いがないか確かめる。(下書き用ワークシート)
ま と め る	5	<p>手紙を清書するとともに、学習を振り返り、手紙のよさを理解する。(主)</p>	<p>○手紙を清書するとともに学習のふり返りをする。</p> <p>◎手紙自体が相手への贈り物になり、相手の手元に残るということを意識させ、清書をする段階では特に丁寧に文字を書くように助言する。</p> <p>☆～先生によるこんでもらいたいな。</p>	【主】手紙のよさや特性に気付いている。(清書用ワークシート・発言・ノート)

V 校内研修との関わり

本校の研修「授業改善の手立て」より、①模範解答の提示、②質問による理解促進、③実践的な課題の設定、④友達同士の評価、⑤読み聞かせの実施、⑥アウトプットの機会を増やす、以上の6点を授業改善の柱に据え、授業を行っていく。

①模範解答の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が模範文を提示し、「書けそうだ」という意欲を高めるとともに、正しい文章の形を身に付けさせる。 ・教師が間違いのある模範分を提示し、推敲の必要性を感じさせるとともに
----------	---

	に、推敲の内容と方法を学ばせる。
②質問による理解促進	・児童が疑問に思う点について質問できる時間を十分にとる。
③実践的な課題の設定	・「幼稚園・保育園・こども園でお世話になった先生に手紙を出すこと」とし、実際に送付する。
④友達同士の評価	・お互いに手紙を読み合う時間を設け、改善点や良さに気付けるようにする。
⑤読み聞かせの実施	・帰りの会等の時間を使い、日頃から読み聞かせを実施することで、語彙力、読解力の基礎を養う。(日常的な活動)
⑥アウトプットの機会を増やす。	・週末に作文の宿題を出したり、授業時間の中で書いたり話したりする活動を多く取り入れる。(日常的な活動)

また、普段手紙を書くことは、個人内で完結してしまう活動である。しかし今回は、推敲の段階で友達と交流することにより(協働的な学び)、友達同士の考えをもちより「よりよいもの」を作っていくことができる。

以上の授業改善を行い、本校の研修主題である「主体的に学ぶ児童の育成」に取り組んでいきたい。

VI 人権教育との関わり

最近では、情報機器の発達により、電子メールやSNSを使ったやりとりが主流である。しかし、情報技術が発達した現代においても、画一的な電子メールの文字よりも、手書きでの手紙をもらおうと嬉しくなる。手書きの手紙には、書く人の人柄、思い、考えなどが自然と表れるものである。心をこめ、考え、推敲しながら書いた手紙には何物にも代えがたい贈り物となる。今回、この学習で相手を思いながら手紙を書くという活動で、心が温かくなり、教材名にあるように「ぼかぼか」してくる感じを味わわせた。相手のことを思い、気持ちをこめて丁寧に書いたり、手紙をよりよいものとするために書き直したりすることは、他の人の大切さを認めることにつながるだろう。

また、友達と交流することで手紙をよりよいものに仕上げていく活動がある。手紙を書くということは、本来個人内で完結してしまう活動である。しかし自分の文章を隠して友達に見せないようにするのではなく、相手の方に喜んでもらえる手紙を仕上げられるよう、友達に積極的に助言してもらう姿勢が大事である。他の人の意見が自身に気付きを与えることから、その大切さに気付くとともに、自分や他の人の意見や考えに共感することができるよう、授業を進めていきたい。【感性・技能】

VII 本時の学習

- ねらい 文章を読み返して間違いを正したり、文章のよさに気付いたりできる。
- 準備 下書き用便せん、たんけんバッグ、ひらがな表、アドバイスカード(付箋)
- 人権教育の視点 他の人の意見が自身に気付きを与えることから、その大切さに気付くとともに、自分や他の人の意見や考えに共感する。【感性】
- 展開 本時【4/5時間目】

学習活動(児童の意識)	時間	○教師の支援及び留意点	評価項目
1 本時のめあてを確認する。 (間違いがあったらいけないな。)	5	○前時の確認で、間違いのあるモデル文を提示する。 ○相手に気持ちを届けるために推敲が必要であることを感じとらせるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> めあて まちがいやよいところをさがして、もっとよいてがみにしよう。 </div>			
2 前時に学習したモデ	10	○読み返すためのポイントを確認する。	

<p>ル文を見て、推敲の確認をする。 (くつつきの「は」「へ」「を」をよく見よう。)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・宛名と自分の名前を正しく書いているか。 ・句点や読点は正しく書けているか。 ・「は」「を」「へ」など、字の間違いはないか。 ・文の意味が分かるか(主語と述語があっているか) ・手紙の内容が適切かどうか。 ・内容に不足はないか。 	
<p>3 自分の下書きワークシートを読み、赤鉛筆で推敲する。 (～を間違えていたな。)</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の文章に間違いを見つけたら、赤鉛筆で直すよう促す。 ○ひらがなの表記に自信がない児童のため、ひらがな表を活用するよう助言する。 	<p>【思・判・表】 文章を読み返して間違いがないか確かめる。(下書き用便せん、アドバイスカード)</p>
<p>4 友達と二人組でお互いの下書きワークシートを読み、青鉛筆で直したりアドバイスカードを書いたりする。 (くつつきの「を」が間違えているな。) (もっと詳しく書いた方がいいな。) (よかった所をアドバイスカードに書くんだな。)</p>	20	<ul style="list-style-type: none"> ○友達に読んでもらい、間違いを直してもらったりアドバイスしてもらったりすることで、自身の手紙がよりよいものになるということを確認する。 ○友達の間違いに気付いたら、青鉛筆で直すよう促す。 ○よかったところや付け足した方がよいことを書く、アドバイスカード(付箋)の使い方を説明する。 ○初めは隣の席の友達と読み合い、終わったら探検バッグをもって他の友達のところへ行き、二人組になって読み合うよう促す。 ○間違えている所がなかったり、すでに赤鉛筆で直されていたりしたら、よかったところや付け足した方がよいことをアドバイスカード(付箋)に書くよう促す。 	
<p>5 本時の振り返りをする。(間違いのない手紙になったな。) (○さんのアドバイスで書き直してみよう。)</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてをもとに本時の振り返りをする。 ○友達から学んだことを自身の手紙に生かすともっとよくなるということを児童から引き出すようにする。 ○次回は清書することを伝える。 	

※教師のモデル文（8月末に転校した友達宛て）

よしみさん、おげんきですか。一年三
くみのみんなもげんきです。
九月のうんどうかいで、一年生は「メ
ラ！」のダンスをおどりました。れんしゅ
うをたくさんして、ほんばんはじょうず
におどれましたよ。
ことはつばめだんがゆうしょうしま
した。みんなでおうえんして、もりあが
りましたよ。
それでは、おげんきで。さようなら。
かみにわみわ

※表記に間違いのあるモデル文

よしみさん、おげんきですか。一年三
くみのみんなもげんきです。
九月のうんどうかいで、一年生は「メ
ラ！」のダンスおおどりましたれんしゅ
うをたくさんして、ほんばんはじょうず
におどれましたよ。
ことはつばめだんがゆうしょうしまし
た。みんなでおうえんして、もりあがり
ましたよ。
それでわ、おげんきで。さようなら。
かみにわみわ

※文の意味がわからないモデル文

よしみさん、おげんきですか。一年三
くみのみんなもげんきです。
九月のうんどうかいで、おどりまし
た。れんしゅうをたくさんして、ほんば
んはじょうずにおどれましたよ。
ことはつばめだんが、六年生のだん
ちようさんが、みんながおうえんして、
もりあがりましたよ。
それでは、おげんきで。さようなら。
かみにわ みわ

※内容の足りないモデル文

よしみさん、おげんきですか。一年
三くみのみんなもげんきです。
れんしゅうをたくさんして、ほんばん
はじょうずにおどれましたよ。
みんなでおうえんして、もりあがりま
したよ。

国語科学習指導案

第3学年

本時で身につけさせたい力

学習課題に沿って、提示された前学年や当該学年で配当されている漢字を使いながら、自らの力で文を書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

I 単元名 「漢字の広場④ 二年生で学んだ漢字④ つくってかざろう」

II 単元の考察

1 児童の実態

2 教材について

本教材は、2年生で学習した漢字を文や文章の中で正しく使えるようになることを主目的とし、学習指導要領〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項のエ「漢字」をねらいとするものである。提示された漢字をもとに、自分の経験や知識と結びつけながら、児童が文を作ったり発表したりする活動を通して、楽しみながら漢字の復習をしたり語彙を増やしたりすることを目指して設定された教材である。

児童は教師が示す課題内容を正しく読み取ったり聞き取ったりしながら、教科書の絵の中にある漢字を一つ、あるいは二つ以上選んで主語のある文をつくる。下学年で習った漢字であることから読んだり書いたりしやすいと感じながら、全員が「できるぞ」と意欲をもって取り組めると考える。「絵をかく」のように作文した児童には、「絵をかいたのは、だれ？」と質問して、「ぼくが」「友達が」といった主語を付け加えられるようにする。次に、「どんな絵をかいたのか?」「何を使って絵をかいたのか?」などと質問することで、児童の想像力を刺激して言葉を増やしていけるようにする。提示された漢字(言葉)を出発点として、言葉を書き加えたり増やしたりしながら作文を完成させていく過程で、児童は言葉を使って表現できる自分を知り、自信を持つことができるようになる。漢字(言葉)から、どのように想像するか、そのためにどんな質問をするとよいか、ということに気づいた児童は児童間での交流を楽しむことができるだろう。さらに、複数の漢字(言葉)を組み合わせて連想し、想像力を広げたり、課題内容に沿って文と文の結びつきを考えながら接続語を使って文をつくったり、意見交流や発表したりする活動を通して、児童に「自分には言葉を扱う力がある」という気持ちを喚起させることができるようになる。これらの学習活動を行うことにより、漢字の知識習得や活用という本教材のめあてに加えて、読み書き、話す聞くといった言葉を扱うことに対する児童の自信を高めるきっかけになる学習に発展させたい。

本教材の学習で得た自信は、国語科の学習に対する意欲の向上につながるとともに、他教科においても、読むことや書くことの力の育成に結びつくと考える。本クラスの児童実態を考えると、下学年で習った漢字を使いながら言葉を扱う多様な活動に取り組む今回の学習は、言葉に関する児童の自信を高めることに有効であると考えて、本教材を学習計画の通りに扱うことにする。

Ⅲ 目標及び評価規準

1 目標

既習の漢字（言葉）を声に出して読んだり、それらを使って文を書いたり、交流して推敲したり、発表したりすることにより、語句の理解を図るとともに、楽しんで漢字の復習をする。また、教師の説明や発問を理解しながら、主語を意識して文を考えたり、言葉を直したり増やしたりする活動に、個人やグループで取り組み、漢字を含んだ言葉を日常生活の中で主体的に使っていきけるようにする。

2 評価規準

知識・技能	前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ)
思考・判断・表現	「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)
主体的に学習に取り組む態度	学習課題に沿って、提示された前学年や当該学年で配当されている漢字を使いながら、自らの力で文を書こうとしている。

3 指導方針

本教材の学習を進めるにあたっては、単に既習の漢字の読みや意味を確認するための学習ではなく、「聞く・読む・話す・書く・伝え合う」といった多様な活動を通して、言葉を扱う力を喚起し、「自分は言葉を扱えている」という自信を児童全員に持たせたい。そして、言葉を扱う力に個人差を感じたととしても、それを能力差と思わず、興味のある分野や生活経験、言葉への向き合い方の違いであると感じさせるとともに、他者との交流によって言葉を扱う力は高まる、という実感を持たせ、以後の学びが、より能動的で協働的になるようにしていきたい。そこで、以下のような方針で指導にあたることとする。

つ か む	<p>(1)教科書にある漢字（言葉）を使って主語のある一文を完成させる、という学習のめあてを明確にすることで、児童が活動に見通しを持ち、「できそうだと感じられるようにする。</p> <p>(2)提示された漢字は必ず、また、それ以外の既習漢字はできる限り、漢字で表記するように伝える。</p> <p>(3)主語のない文を書いた児童には、動作の主体を尋ねることで主語を書けるようにする。</p>
追 求 す る	<p>(4)主語のある文を書いた児童には、「いつ」「どこで」「だれと」「どのように」などの言葉を使って質問し、具体的に想像できるように促して、文を詳しくする言葉を増やせるようにする。</p> <p>(5)挑戦できそうならば、提示された漢字（言葉）を複数使って作文することを勧める。</p> <p>(6)さらに挑戦できそうな児童に対しては、「どうしてそうなのか」と理由を尋ねたり、「そのあとどうなったか」と結果を尋ねたりすることで、「なぜなら、～だから」「だから、～なった」などと、接続語を使って最初に考えた一文に続く文を考えられるようにすることで、もっと難しいことに挑戦したいという学習意欲を満たせるようにする。</p> <p>(7)教師がモデルとなり、漢字（言葉）を見て自分が想像した内容と、読み手が理解した内容の違いを知ることは楽しいことであり、話し合うことによって自分の考えが広がったり豊かになったりすることは面白いのだと児童に伝えて、交流の意欲を高められるようにする。</p> <p>(8)上記の内容を児童が理解できるように伝えることで、(2)～(6)の内容を児童間で行えるよ</p>

	うに指示する。
ま と め る	(9)発表（掲示）用の紙に自分の考えた文を書くことで、児童が目的意識を持って活動し、全員が「教科書にある漢字（言葉）を使って主語のある一文を完成させる」というめあてを達成できるようにする。
	(10)発表（掲示）用の紙を国語科の作品として後日教室廊下側の壁面に掲示することを見越して、時間的に余裕のある児童には、色やイラストを加えるなどの装飾を勧めて、多くの人に見てもらおう作品（文）を完成させる目的意識を高め、満足感や達成感を感じられるようにする。

IV 指導計画（全2時間予定 本時は、1/2）

過程	時間	単位時間の目標 ☆「主体的」「対話的」 「深い学び」の観点	○主な学習活動 ◎指導上の留意点 ☆児童の姿や思考等	【観点】評価項目（方法）
つ か む	1 本 時	前学年で配当されている漢字を使って、主語をはっきりさせた文を書くことができる。（主）	<p>○本時のめあてを知り、活動全体の大まかな流れを知る。</p> <p>◎活動全体に見通しを持たせることで、文を考えて書き、交流して修正し、発表することへの積極的な取組を促す。</p> <p>☆2年生で学んだ漢字を使って主語のある文をつくろう。</p> <p>○教科書にある漢字の読み方や意味を確認する。</p> <p>◎教科書にある漢字をクラス全員で音読し、読み方と意味を確認する時間を設定する。また、教科書内の全ての漢字を一つずつ短冊形の掲示物に記して黒板に並べることで、児童が本時で扱う漢字を視覚的に把握しやすいようにする。</p> <p>☆2年生で学んだ漢字だから簡単だな、読み方もわかるぞ。</p> <p>○提示された漢字を使って主語のある文をつくる方法を知り、自分のノートに文を書く。</p> <p>◎短冊形の掲示物を使ってクラス全体で意見交流しながら「提示された漢字を使っている」「主語がある」ということを確認するとともに、「提示された漢字を複数使ってもよい」「送り仮名は変えてもよい」などについて共通理解を図る。</p> <p>☆「三角形の紙を切る」で掲示された漢字を3つも使えたぞ。あつ、主語がないから、主語をつけよう。「お父さんが三角形の紙を切る」にしよう。</p> <p>◎簡単な一文でもよいので、全員が書けるように支援する。</p> <p>○クラスメイトと意見交流して伝わりやすい文に書き直す方法を知る。</p> <p>◎文の善し悪しを児童が判断し修正できるように、例文を用いてクラス全体で意見交流する場を設定し、意見交流と書き直しのモデルを具体的に示す。</p> <p>☆クラスメイトの書いた文が「考がえる」となっていたなら</p>	【主体的に学習に取り組む態度】学習課題に沿って、提示された前学年や当該学年で配当されている漢字を使いながら、自らの力で文を書こうとしている。（ノート）

		<p>「考える」だよと伝えよう。</p> <p>○意見交流を行い、掲示された漢字を正しく使えているかを確認したり、相手に伝わりやすい文に修正したり、想像したことが詳しくなるように言葉を増やしたりする。</p> <p>◎どのように修正したり言葉を増やしたりしたか、後で説明できるように消しゴムを使わないで修正や加筆をできるように促す。</p> <p>☆意見交流で、どのように文が変わったかを先生は知りたいのだな。意見交流をして、もっとわかりやすい文やくわしい文にしたいな。</p> <p>○主語のある文を掲示用の紙に書いて黒板に掲示する。</p> <p>◎全員に掲示用の紙を配り、その紙に自分が考えた文を書かせて黒板に掲示させることで、児童が「できた」という満足感を得られるようにする。</p> <p>☆よし、できた。この文を紙に書こう。できるだけ丁寧な字で書くようにしよう。完成して嬉しいな。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <p>◎意見交流する前と後で、どのように文が変化したか、どうして変化させようと思ったか考えられるように促す。</p>	
<p>追 求 す る ・ ま と め る</p>	<p>② 前学年や当該学年で配当されている漢字を使って、主語をはっきりさせて文や文章を工夫して書き、掲示用の作品を完成させる。</p>	<p>○本時のめあてを知る。</p> <p>◎児童が書いた掲示用の紙を黒板に掲示し、前時の活動を肯定的に振り返りながら、児童に「書くことができた」という気持ちを想起させることで、本時の活動に向けた意欲向上を図る。</p> <p>☆前回は、自分で文を完成させることができよかったな。全員が文を完成できて、みんな頑張っていたな。</p> <p>○作品完成に向けて、前時で考えた文に提示された漢字を増やしたり、内容を詳しくする言葉を増やしたり、接続語を使ってつなげる文を考えたりする。</p> <p>◎「複数の漢字」「詳しくする言葉」「接続語」を使うことで、児童が自分の経験や知識などと結びつけながら想像力を働かせて、楽しみながら文を考えられるようにする。</p> <p>☆前回は、掲示された漢字を一つしか使えなかったから、今回は二つ使って文を考えてみよう。</p> <p>○クラスメイトと意見交流しながら、正しく漢字を使ったり、相手に伝わりやすい文になるように手直ししたり、接続語を使って二文以上にして書くことに挑戦したりする。</p> <p>◎簡単な一文を完成させて活動がとどまっている児童には、詳しくする言葉を増やせるように質問したり、違う漢字や言葉を使って別の文を考えてもよいことを伝えたりして、</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】学習課題に沿って、提示された前学年や当該学年で配当されている漢字を使いながら、自らの力で文を書こうとしている。(ノート・掲示用の紙・観察)</p>

		<p>何をすればよいかがわかるようにする。</p> <p>☆「お父さんが紙を切る」と考えたら、「どのような紙」と質問されたな。よし、「お父さんが画用紙を切る」に変えてみよう。</p> <p>○完成した文を掲示用の画用紙に書き表す。余裕があれば文に合った挿絵や色を加える。</p> <p>◎全員の作品を廊下に掲示して、多くの人に見てもらうことを伝える。廊下を通った人が読みたいと思えるように大きく丁寧な文字を書くように促す。素敵な国語の作品ができたことを感じられるようにする。</p> <p>☆よい作品を完成させられて嬉しい。自分は国語が得意だな。</p>	
--	--	---	--

V 校内研修との関わり

2年生で学んだ漢字（言葉）を使って文をつくる活動は、多くの児童にとって「簡単で自分にもできそうだ」と感じられる内容であろう。ある程度自信をもって完成できた文であれば、意見交流にも取り組みやすいだろう。意見交流ではクラスメイトからの助言や感想に触れて、読み手に伝わりやすい文に修正しようとする児童がいると思われる。そして、他者の意見を聞いたり参考にしたりして、自分のつくる文の完成度が高まったと感じられる児童もいることだろう。2つ以上の漢字（言葉）を組み合わせて文を考えたり、接続語を使って文を増やしたりする発展的な活動にも取り組みながら、児童の「できる」「できた」という気持ちを積み重ねたい。この学習活動を通して、児童に「自分には言葉を扱う力がある」ことを喚起させ、言葉を扱うことに対して自信を持たせたり、意欲を高めたりできると考える。

本学習において、児童が「自分は言葉をうまく扱うことができた」という実感を得られれば、言葉を扱う自信と意欲を向上させることができ、国語科を中心とした言語活動に対して積極的に取り組んでいけるのではないかと考える。「(研修副主題である)国語科を中心とする「個別最適で協働的な学び」を通して、(研修主題である)主体的に学ぶ児童の育成」に結びつくことを目指して、本学習を設定する。

VI 人権教育との関わり

学校では一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることを目指している。

今回の学習では、漢字（言葉）の選択や漢字（言葉）から連想する内容などに、違いがあることを知るとともに、その違いに興味を持てるようにしたい。また、相手の伝えたいことと自分の理解に隔たりがある場合には、意見交流により最適な表現を探らせたい。こうした活動を通して、自分の大切さとともにあらゆる他者を認め、共に生きているという実感をもてるようにしていきたい。

【感性・判断力・実践力】

Ⅶ 本時の学習

1 ねらい

2年生で習った漢字（言葉）を正しく使い、想像力を働かせながら、主語のある文を書く。

2 準備

漢字（言葉）の短冊形掲示物、児童が文を書くための紙と掲示用マグネット

3 人権教育の視点

○感性：他の人の考えを知り、その考えを自分の考えと同じように大切にする。

○嚙励・戮励：意見交流を通して、他の人の考え方を知ろうとしたり自分の考えを伝えたりできる。

4 展開 本時【1/2時間目】

学習活動（児童の意識）	時間	教師の支援及び留意点	評価項目
<p>1 本時の学習内容の大体を知るとともに黒板に掲示された漢字の読み方を確認する。</p> <p>（漢字を使って主語のある文をつくるのだな）</p> <p>（2年生で習った漢字だから簡単だな）</p> <p>（自信を持って読み方を言えそうだ）</p>	5分	<p>○穴埋め形式で考えさせることで、「（2年生で習った）漢字を正しく使って主語のある文を書く」という本時のめあてを自分事として意識できるようにする。</p> <p>○本時で扱う漢字を黒板に掲示しておくことで、読み方や主語のある文のつくり方の確認に役立てる。漢字ごとに移動できる短冊形の紙を使うことで、選択した漢字は何か、いくつの漢字を使い、どのような順序で組み合わせたか、視覚的に理解できるようにする。</p>	
<p><めあて> 教科書にある漢字を使って、主語のある文をつくろう。</p>			
<p>2 本時の学習内容を詳しく知り、見通しを持って学習活動に取り組む。</p> <p>(1) 黒板に掲示された漢字のどれかを使い、主語のある文を自分で考えてノートに書く。いくつか考えられた場合には、自信作を一つ選ぶ。</p> <p>(2) ノートに書いた文（自信作）をクラスメイトに見せて意見をもらう。必要があれば修正したり言葉を増やしたりする。</p> <p>(3) 余裕があれば、接続語を使って続きの文を考えた</p>	25分	<p>○漢字（言葉）を見て、「何かを想像できる」「自分が想像した内容を言葉で表現できる」「相手の言葉を聞いて何を想像したのか、ある程度理解できる」という素晴らしい力が身につけていることを児童に自覚させて、想像力を働かせて文づくりに取り組む面白さを児童に伝えることで、児童が本時の活動に期待感を持てるようにする。</p> <p>○教師が活動全体の流れを模範演技を行って見せたり、タイマーを使って目安となる時間を示したりすることで、児童が活動に見通しを持ちやすいようにする。</p> <p>○文を考えてノートに書けた児童には、新しい文を考えたり、複数の漢字や接続語を使ったりするように声をかける。また、周囲に困っている人がいれば支援してもよいこ</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】学習課題に沿って、提示された前学年や当該学年で配当されている漢字を使いながら、自らの力で文を書こうとしている。（ノート・掲示用の紙・観察）</p>

<p>り、新しく別の文を考えたり、クラスメイトの相談に乗ったりする。</p> <p>(4) 掲示用の白い紙に、自分が考えた文を書いて、黒板に掲示する。</p> <p>(5) 余裕があれば、掲示用の白い紙に挿絵を描いたり色をつけたりして装飾する。</p> <p>(漢字を見て、よいことを思いついたぞ、文に表そう)</p> <p>(主語のある文の一つ書けたから、もっとたくさん書いてみよう)</p> <p>(意見交流では、漢字や言葉の間違いを見てあげよう)</p> <p>(主語を書いてなかったら、「走ったのは誰？」のように質問してあげよう)</p> <p>(「いつ」「どこで」「どんな」などの言葉を使って質問してみよう)</p> <p>(時間内に掲示用の紙に自分の考えた文を書き終えよう)</p> <p>(全員が自分の文を完成できるといいな)</p>	<p>10分</p>	<p>とを伝えて、協力しながら学習を進められるように促す。</p> <p>○うまく文をつくれないうちには、使いたい漢字（言葉）や主語、思い浮かべた内容を一緒に考えることで、文を完成できるようにする。</p> <p>○意見交流の場面では、「漢字や送りがない」「誤りがある」「主語がない」「誤字や脱字がある」ことに気付いたら修正を促すように指示する。</p> <p>○意見交流の場面では、修正箇所の有無を判断するだけでなく、余裕があれば、「どんな色なの?」「大きさはどのくらい?」など、詳しく聞いてみたいことを質問するように伝える。</p> <p>○クラスメイトとの会話から言葉が増えることは大変よいことだと伝えることで、意見交流の質が高まるようにする。</p> <p>○掲示用の紙を配り、自分が考えた文を書いて黒板に掲示するように伝える。時間前に完成できた児童には困っている人の手助けをしたり、他の漢字を使って文づくりをしたり、完成した掲示用の紙を装飾したりしてよいことを伝える。時間内に全員が掲示できるように促す。</p> <p>○全員が本時のめあてを達成でき、提示された漢字を自分で選んで主語のある文をつくれたことを賞賛し、言葉を扱うことへの自信と意欲を高められるようにする。</p>
<p>3 本時を振り返る。</p> <p>(漢字を正しく使いながら主語のある文をつくれた!)</p> <p>(意見交流で自分の文をくわしくできて嬉しいな!)</p>	<p>5分</p>	<p>○自分やクラスメイトの取組をめあてをもとに振り返り、「聞く・読む・話す・書く・伝え合う」という活動に対して、どのように向き合い、どのようなことを感じたかを自分の言葉でまとめられるようにする。</p>

国語科学習指導案

第6学年

本時で身につけさせたい力
文章を書く際に、「説得力チェック表」を用いて、友達の意見を参考にしながら自分の文章がよりよいものになるように、書き直すことができる。【思・判・表（Bウ）】

I 単元名／教材名 説得力のある文章を書こう／自分の考えを発信しよう

II 単元の考察

1 児童の実態

2 教材について

説得力のある意見文を明確な根拠をもって書く単元である。児童は、自分の得たさまざまな情報の真偽を確かめながら意見文を書いていく。情報化社会で必要な情報の取捨選択・受信者・発信者としてのメディア・リテラシーを養っていくためにも重要な学習である。語句の係り方に注意し、目的や意図に応じて事実と感想・意見を区別して書いたり、引用や図表・グラフを用いて書き方を工夫して書いたりしながら、つけたい言葉の力が身に付けられる教材である。児童にとって、本教材は以下の点で意義深いといえる。まず、教材を通じて、「文章の書き方を理解して、文章を書き、それを友達と読んで話し合い、また書き直して改善する」という学習を繰り返す。その中で、文章の説得力を高めるための具体的な手立て・技術を児童は身に付けることができる。また、自分の意見を明確にし理由や根拠を示す方法・具体的な例やデータを活用する方法・反対意見に対する反論を展開する方法などを体得することができる。これらのスキルを身に付けることによって、児童は文章を書く力を向上させ、自信をもって自分の考えを表現できるようになる。以上のことが期待されると考える。本教材を通じて、友達のテーマについても質問する場を設け、興味のないテーマにも積極的に向き合う姿勢やチャレンジ精神を養っていきたい。自分の関心事について説得力をもたせるように書き表したり、友達の関心事に興味をもって聞いたりすることで、児童の視野が広がり、コミュニケーション能力向上にも繋がると考える。本学級の児童は、話し合いや意見交換を通じて、児童同士でコミュニケーションをとり、他の児童の意見を尊重する姿勢がみられる。そのため異なったテーマについて考え合い話し合うことで、今まで以上にお互いの意見を尊重しつつ、それを生かして文章を作成する力を培うことができると考える。

以上のように、教材「説得力のある文章を書こう」は、児童の実態に合わせた意義深い学習になっている。児童の興味や意欲を大切にしつつ、文章力やコミュニケーション力の向上を目指す学習を積むことが、これからの情報化社会をよりよく生きていく力を養うことにもつながると考え本学習を設定した。

III 目標及び評価規準

1 目標

理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。

2 評価規準

評価規準	知識・技能	文の中での語句の係わり方に注意し語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（＜知識及び技能＞(1)カ）
	思考・判断・表現	・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫している。（＜思考力、判断、表現＞Bウ） ・「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き方を工夫している。（＜思考力、判断、表現＞Bエ） ・「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えている。（＜思考力、判断力、表現力＞Bウ） ・「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、友達の文章のよいところを見つけている。（＜思考力、判断力、表現力＞Bカ）
	主体的に学習に取り組む態度	積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題に沿って理由や根拠を示して、説得力のある、読み手の心を動かす意見文を書こうとしている。

3 指導方針

つかむ

1. 児童が主体的に学習できるように、日頃考えていることや疑問に思っていることを、自分ごととしてとらえ新聞に投稿することを単元のゴールとして設定する。
2. 読み手(不特定多数)を意識した文章を書けるように、上毛新聞社の編集長の言葉を引用し「心を動かす」文章になっているかを確認する。
3. 自分の意見を明確にし、理由や根拠を示す方法を学ぶために、教科書の模範文章と実際の投稿文を児童に提示し、2つの資料を比較しながらその特徴や構造を一緒に分析することで、良い文章の形を学べるようにする。その際に、「序論・本論・結論」(はじめ・中・終わり)」という構成が、文章を分かりやすくするために有効であることを児童に体得させたい。

追求する

4. 教科書の「ここが大事」を参考にして児童が継続して文章を書くことで、自分の課題に気付き、より説得力のある文章にしていけるようにする。
5. 説得力のある文章を書くためには、自分の考えとは反対の意見をふまえて書くとよいことを助言し、反対意見を促す。
6. 児童が説得力の足りない部分や改善点に気付き、読み手を納得させる文章を書けるように、個に応じたフィードバックと指導を行う。
7. インターネットなどから資料を活用するときは、出典を示すなど、情報リテラシーに気を付ける。
8. 教科書の「友達と読み合って、交流する」を参考に、児童が他者からの意見を受け入れ、より説得力のある文章を書けるように、友達同士の評価を行って、意見を交換し合い、相互に良い文章を書けるように促す。その際に、「①批判するのではなく、共感を大切にすること」「②向上するための助言を意識すること」に留意するよう助言し、書き手の思いに寄り添って、書き手の主張を理解しようとする姿勢がもてるようにする。
9. 説得力のある文章を書くためのポイントを、教師が教えるのではなく児童自身に気付かせることで、学習への主体性がもてるようにし、授業の中で活用していけるようにする。
10. 児童が主体的に書くように、自主的に取り組む時間を確保し、興味をもつテーマや意見に対して自由に文章を書けるようにする。
11. 意見文を書くときにドキュメントを活用することで、画面を共有しながら友達と話し合ったり、その後の加除修正が適切にできるようにする。
12. 児童が「また書きたい。」と意欲的に取り組めるように、説得力のある文章を書けた際には、積極的に褒め成功体験を感じられるようにし、さらなる向上につなげるために自信をもたせる。
13. 児童が、文章中の誤字や脱字を見つけ修正し文章の質を向上させたり、文章の構造や論理的な流れを検討したりできるように、ドキュメントで書いた文章を原稿用紙に清書する。

まとめる

14. 清書をしたものを再度友達同士で読み合うことで、始めの文章より読みやすくなったことを確認できるようにする。
15. 最後に、児童が何をどのように学び、新たな視点や次の時間に向けての意欲につながるように振り返りができるようにする。

IV 指導計画(7時間計画 本時は、5/7時間)

過程	時間	○単位時間の目標 ☆「主体的」「対話的」「深い学び」の視点	○主な学習活動及び ◎指導上の留意点 ☆児童の姿や思考等	【観点】 評価項目 (方法)
つかむ	1	○学習の見通しをもつとともに、自分が伝えたい主張を明確にすることができる。(主)	○「学習の進め方」を読み、どのように意見文を書くのかイメージし、学習の見通しをもつ。 ◎単元のゴール「みんなのひろばに投稿しよう」を提示し、児童の意欲を高める。 ※みんなのひろばとは、上毛新聞の読者のページ ○説得力のある文章とは、どのようなものなのかを考え、学級で「説得力チェック表」をつくる。 ◎ 説得力のある文章を書くためのポイントを教師が教えるのではなく、児童自身に気付かせることで、学習への主体性をもたせる。 ☆新聞に投稿して、みんなに自分の意見を知ってもらいたいな。 ◎不特定多数の人に分かりやすく書くために、論理的な文章を書く必要があることに気付けるように	【主】学習の見通しをもつとともに、自分が伝えたい主張を明確にしている。(発言・ワークシート)

			<p>する。 ☆「心を動かす文章」って、どんな文章だろう。</p>	
追求する	2	<p>○取材を通して、説得力のある意見文を書くための材料を集めるとともに、自分の主張を明確にすることができる。(主)</p>	<p>○課題を決めて、取材をする。 ◎日頃、感じている問題や改善したいことなどについて話し合うことで、テーマを自分ごととして捉えられるようにする。 ○教科書「夏川さん」の取材方法を読み、取材活動の見通しを立てる。 ◎児童が意見文を書く際の自己の課題が分かるように、自己評価と目標設定を促す。自分が成長したいと思う、具体的な目標を設定するように助言することで、文章力向上を目指せるようにする。 ◎自分の意見に対する反論も、自身で考えられるように促す。 ☆説得力のある文章を書くには、具体例や根拠が必要だな。</p>	<p>【知・技】取材を通して、説得力のある意見文を書くための材料を集め、意見文を書く自分の主張を明確にしている。(発言・ワークシート)</p>
	3	<p>○自分の主張を効果的に伝えるための構成を考え、構成表を完成させることができる。(主)</p>	<p>○教科書の構成表例をもとに、「序論・本論・結論」という構成をおさえる。 ◎模範文章の分析のための時間を十分に設け、事実の感想の区別や反論の仕方を理解できるようにする。 ☆前に文章を書いたときに、理由と根拠の前に説明があると分かりやすいと教わったな。どんな説明を書けば、分かりやすくなるかな。 ◎2つの意見文を比較し、共通点と差異を知ること、上質な表現の効果を押さえる。 ◎なぜ、「序論・本論・結論」という構成が有効なのか児童に考えさせる。 ☆前に書いた意見文のように、はじめ・中・終わりで書くと、書きやすくて読みやすかったな。 ☆表は、箇条書きに書くのだったな。</p>	<p>【思・判・表】自分の主張を効果的に伝えるための構成表を作っている。(発言・ワークシート)</p>
	4 5 本時 6	<p>○意見文を下書きし、自分の主張が読み手に伝わるかどうかを考えながら推敲し、清書する。 (対)(深)</p>	<p>○模範文章を参考にして、意見文を書くためのポイントを押さえ、自分の意見文に生かす。 ◎再度、説得力のある模範文章を児童に提示し、その特徴や構造を一緒に分析することで、児童が自分の意見を明確にし、理由や根拠を示す方法を学ぶことができるようにする。 ◎友達同士の評価を行い、「①批判するのではなく、共感を大切にすること」「②向上するための助言を意識すること」を留意するよう伝える。 ☆事実と感想を分けた文章が書けているかな。 ☆読む人の「心を動かす文章」になっているかな。 ☆反対意見に対する反論が「確かに～」で、書いてあるな。 ○ドキュメントに赤で書き直した文章を清書し、構成後と前の文章を比較する。</p>	<p>【思・判・表】構成表をもとに、説得力のある意見文を書き、自分の主張が読み手に伝わるかどうかを考えながら推敲している。(発言・下書き用紙)</p>
まとめる	7	<p>○意見文を友達と読み合い、表現の仕方に着目して考えや意見を伝え合うとともに、説得力のある意見文を書くための構成や記述の工夫を理解している。(主)(対)(深)</p>	<p>○授業を振り返り、意見文を書くための手立の有効性について、お互いに助言しあう。 ◎授業全体の振り返りを行う。児童の成長や気づきを共有し、授業を通じて学んだことや認識をまとめたアウトプットを行うようにする。 ☆友達の意見文、上手に書けてるな。説得力のある文章の書き方が分かってきたぞ。違う課題でも書いてみたいな。</p>	<p>【主】意見文を友達と読み合い、表現の仕方に着目して考えや意見を伝え合うことで、本単元を振り返り、説得力のある意見文を書くための構成や記述の工夫について理解している。(発言・学習感想)</p>

V 校内研修との関わり

本学習は、理由や根拠を示して説得力のある意見文を書く単元である。説得力のある文章を書くことを主体的に児童が考えられるように、「新聞に投稿しよう」という単元のゴールを設定した。上毛新聞編集長の「読み手の心を動かす文章かどうか、掲載になるかどうかの基準です。」という言葉に児童に提示し、説得力のある文章とは、読み手の心を動かす文章でなければならないということを意識できるようにさせていきたい。説得力のある文章を書くためには、身の回りのことに興味・関心をもって自分の視野を広げることが大切である。児童が課題に主体的に取り組むことで初めて、説得力のある、読み手の心を動かす文章を書くことができる。そのため常時活動を通じて、児童が興味をもちそうな情報を提示し、自分自身で調べ活動が続けていけるように支援を続けることが重要である。日頃課題に思っていることを取材したり、クラスの友達にアンケートをしたりしながら児童は意見文を書いていく。意見文を書くためには、伝えたいことに合致した表現や構成になっているか・事実と感想や意見を区別して書いているか・根拠が明確か、などが重要なポイントになる。自分が書いた意見文が説得力があり読み手の心を動かすものになっているかどうか、友達と読み合っって意見交流をするなどしながら、児童が確認できるようにしていきたい。本校研修の手立てである①模範解答の提示 ②質問による理解促進 ③実践的な課題の提示 ④友達同士の評価を授業の柱に据え授業を実施していく。本授業を実施するにあたり、校研修主題である「主体的・対話的に学ぶ児童」を意識し、児童の学びが「個別最適で協働的な学び」につながるように学習を進めていきたい。以下は、校内研修の高学年部の手立である。

模範解答の例示	①教科書の模範文や友達の記事、教師がテーマに沿って作文した文章等を提示し自分の文章との共通点や相違点を考えながら意見交換をし、正しい文章の形を身に付ける。 ②課題については、正しい答えを示すが、問題の種類がより複雑で、複数の書き方が存在するような課題を選ぶ。 ③解答方法を教えるのではなく、問題に対する考え方やアプローチの仕方を示すようにする。 ④模範解答を見た上で、自分で改善案を考え発表することで、自己成長につなげる。
質問による理解促進	①児童が自分で考え、答えを導き出す力を養わせるため、問題に対して自分なりの考えを言語化する機会を設ける。 ②他の児童の意見に耳を傾け、質問し合うなど協働的に学ぶ環境をつくる。
実践的な課題の設定	①児童が実際に課題について考え、解決することで思考力を高めるような課題を設定する。 ②友達と協力して課題に取り組むことで、協調性を身に付ける。

VI 人権教育との関わり

本単元では、児童が意見文を書きそれを友達と読み合っって、対話を行いながらよりよい意見文に仕上げていく。対話をする時には、「誰かが誰かをあなどっていたり、誰かがあなどられていたりしていると感じない環境が大切である。」とかつての名教師であった大村はまさんも述べている。友達のことを否定したりばかにしたりせず、お互いに認め合っって協力しあう姿勢の重要性を児童に伝えているものの、児童の何気ない言葉を聞いていると、「うざい」「きもい」などの感情語を安易に口に出している様子が見られる。感情語を口にせず、自分の気持ちを言葉で伝えるためには、語彙を増やし言葉の力を身に付けるしかない。それは、家庭、地域、学校が連携して児童を取り囲むすべての環境下で、身に付けさせていくものと考えられる。そのために、日頃から言葉の力を身に付けさせる学習を大切にしていきたい。その中で、児童が真剣に友達の意見に耳を傾け、自分の意見を遠慮せずに言える学習環境を徹底して、力をつけていきたい。

以上の点に留意しながら、友達と交流する際には、友達のよいところを認めたり、相手の文章のよりよいところを伝えたりすることを学級として大切にしていける。学級に共感的な雰囲気があり、根拠をもとに友達と話し合うことを続けられれば、意欲的に意見文を書く活動が深まってくると考える。【感性・判断力・実践力】

VII 本時の学習

- 1 ねらい 自分の主張が読み手に伝わるかどうかを考えながら推敲し話し合うことを通して、より説得力のある意見に書き直すことができるようにする。
- 2 準備 教師：モニター・クロームブック・説得力のある意見文を書くためのチェック表
教科書模範文・投稿文(拡大)・振り返り(フォーム)
児童：前時に書いた下書き(ドキュメントに記入済)
- 3 人権教育の視点：自分の気づかないことを指摘される場面から他の人の意見の大切さに気づくとともに、自分や他の人の意見や考えに共感する。【感性】

4 展開 本時【5/7時間目】

学習活動(児童の意識)	時間	○教師の支援及び留意点 ・予想される児童の反応	評価項目
<p>1 説得力のある文章について再度確認をした後、本時のめあてを知る(理由や根拠を示すのだったな。事実と感想を分けて書くのだったな。反対意見は、書いてあるかな。)</p>	5	<p>○前時に書いた自身の文章を読み直し、説得力のある意見文になっているか自分で確認することを促す。また、説得力チェック表を活用することも助言する。ドキュメントに色分けをしながらチェックをするよう伝える。</p> <p>○読み直しの視点として、チェック表の他にも、一文の長さ・主語と述語の対応・副詞の使い方・読点の打ち方など文についても注意して見直すよう助言をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この主語に、この述語はおかしいかな。 ・読点が多すぎて、読みにくいな。 <p>○模範文の拡大図(学びの成果物)を確認しながら、本時の学習を焦点化して「めあて」を知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて: 友達の見取りを取り入れて、自分の文章をより説得力のあるもの書き直そう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の文章は、説得力のあるものになっているかな。 ・自分では、もう直すところはないと思うけれども、友達はどうなことを指摘してくれるのかな。 ・友達の文章を見直す時に、気をつけるところは…。 	
<p>2. 説得力チェック表のポイントを活かしながら、前時に各々が書いた文章をグループで読み合っ、「説得力のある文章」についての意見交流をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>チェック表:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見が明確か ・理由や根拠が書いてあるか。 ・自分が経験したことか ・調べたことの引用が書いてあるか。 ・事実と感想が区別して書いてあるか。 ・予想される反対意見と、それに対する反論が示されているか。 ・心を動かす文章になっているか。 </div>	20	<p>○新聞記事が分かりやすく読みやすいのは、文章の構成を守り、複数の目で推敲していることを伝え、よりよい文章を書くためには協働作業が不可欠であることを伝える。</p> <p>○教科書の模範文を参考にして、意見文を書くためのポイントを説得力チェック表をもとに押さえ、自分の意見文に生かしているか再度確認するよう促す。</p> <p>○説得力のある模範文章を児童に提示し、その特徴や構造を一緒に分析することで、児童が自分の意見を明確に示したり、理由や根拠を示す方法を学んだりすることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模範文章の～のところを、自分の文章に生かしているな。 <p>○予め児童が書いた文章を、共有のドキュメントで編集可能な状態にしておく。</p> <p>○ドキュメントを共有して、友達同士の評価を行い、「①批判するのではなく、共感を大切にすること」「②向上するための助言を意識すること」に留意して臨むことを伝える。</p> <p>○画面を共有しコメントするだけでなく、それに対しての共感や反論を示しながら、深める学習となるよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に友達に、ただ褒めるのではなくて、文章がよくなるためのコメントをしてほしいって言われたな。 ・具体例はあるけれども、それをまとめられていないな(抽象がないな)。 ・「つまり」の後の文が、まとまってないな。 ・～さんから、反論が上手に書けてるって言われて嬉しいな。丁寧に清書をしよう。 <p>○一人一人の児童に対して机間支援や指導をして、友達に説得力のある文章を書くためのコメントができてい確認をし適切な助言をする。</p>	<p>【思・判・表】構成表をもとに、説得力のある意見文を書き、自分の主張が読み手に伝わるかどうかを考えながら推敲している。(ドキュメントコメント・友達への声掛け)</p>

<p>3. 友達と話し合った結果をもとに、ドキュメントに書き直し、再度読み合う。</p>	<p>15</p>	<p>○友達からの助言を参考に、ドキュメントの文を書き直すように促す。</p> <p>○友達の指摘が自分の意図するものと違っているときは、遠慮無く友達に伝え、本意でない書き直しはしないように声掛けをする。</p> <p>○書き直し前後のドキュメントをクロームブック上に左右に並べ、自分の文章の変容に気付けるようにする。</p> <p>・確かに、この部分は～と書いた方が、分かりやすいな。</p>	<p>【知・技】文章を友達の意見をもとに、自分の考えが伝わるようにより分かりやすく書き直している(ドキュメント)。</p>
<p>4. 学習をふり返る。</p>	<p>5</p>	<p>○学習の感想をフォームで行い、本時で自分の文章にどのような改善点があったかを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分では、分かりやすいと思っていたけど、根拠が曖昧な部分があったな。 <p>○机間確認の結果、各々の児童の文章が読みやすく、分かりやすくなったことを伝え、それを児童に気付かせるとともに、今回は、原稿用紙に清書することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達にも読んでもらって直したから、自信をもって清書ができるな。 <p>振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の文章がよりよく変わったか ・友達の文章をよくするための助言ができたか。 	